

あゆみ

Vol.53

平成30年3月23日



表紙写真 「ニホンリス」(牧の池どうぶつ病院 鈴木克弥先生)

雪の日の朝に餌を求めてやってきたニホンリスです。

名古屋市内でも少数ですが生息が確認されており、フクロウなどの大型猛禽の餌ともなるため、多様な生態系の形成に重要な役割を担っています。

最近餌となるオニグルミの自然林が減少している事により個体数が激減しています。

この可愛い姿が名古屋市内でも末永く観察できる事を願ってやみません。

表紙題字 故 芝 田 松太郎 氏

(名古屋市獣医師会 元会長)

あゆみ Vol.53

巻頭言 役員として区切りの年度を迎えるにあたって

(公社)名古屋市獣医師会会長 荻 曾 敏 之 ……	1
平成29年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 理事 ……	3
平成29年度 狂犬病予防集合注射	集合注射対策委員会 …… 4
平成29年度 学校飼育動物委員会活動実績	学校飼育動物委員会 …… 5
平成28年度 夜間動物緊急診療所報告	夜間診療所委員会 …… 9
平成29年度 学術委員活動報告	学術委員会 …… 11
平成29年度 学術奨励金事業	学術委員会 …… 12
平成29年度 定期購読雑誌・書籍	学術委員会 …… 12
平成29年度 学術セミナー	学術委員会 …… 13
平成28年度 人獣共通感染症調査事業報告	学術委員会 …… 15
平成28年度 傷病野生鳥獣保護活動集計	学術委員会 …… 22
平成28年度 テレフォンドクター集計結果報告書	動物愛護事業委員会 …… 23
平成29年度 長寿猫飼主表彰式 長寿猫写真展	動物愛護事業委員会 …… 28
平成29年度 東山動物園の長寿動物への好物寄贈	動物愛護事業委員会 …… 29
平成29年度 絵本寄贈	動物愛護事業委員会 …… 30
動物フェスティバル2017なごや	動物フェスティバル実行委員会 …… 31
平成28年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 動物看護師認定試験	動物看護師認定委員会 …… 32
平成29年度 名古屋動物看護学院 報告	動物看護師養成事業委員会 …… 32
平成29年度 社会福祉法人 中部盲導犬協会への寄付 ……	32
平成29年度 交流会①	総務 …… 33
平成29年度 交流会②	福祉厚生委員会 …… 34
会員寄稿	
張さんの耳鼻咽喉科医院の思い出	小 島 健 治 …… 35
平成29年度 同好会報告	
・テニス同好会 ……	37
・ソフトボール同好会 ……	37
平成29年度 名古屋市獣医師会行事 ……	38
退会者報告 ……	38
物故者追悼 ……	38
協賛広告 ……	39
編集後記 ……	46

巻頭言

役員として区切りの年度を迎えるにあたって

公益社団法人 名古屋市獣医師会
会長 荻曾敏之

私ごとですが、昭和63年6月に入会し、平成7年4月から名古屋市獣医師会の理事職を8年間、さらに平成15年4月より副会長を8年、そして平成23年度より会長を務めてまいりました。現任期が来年の5月総会終結時までで、個人的にも今年60歳を迎えることから一つの区切りをつけるべき時期ではないかと感じているところです。

そう感じていてもそのための重要課題は、今のままでは次の役員のなり手が明らかに不足している現状があり、この1年間で次期執行部メンバーにスムーズに引き継げるよう事業運営の整理を進めていかなければならないと考えています。特に会長に就任した公益移行以降、会館土地購入に伴う基金、名古屋市とのなごやかキャット補助事業、動物看護師養成事業、狂犬病予防法に関わる鑑札・注射済票交付委託事業等に関係して名古屋市からの補助金、委託金も今年度は4,200万円以上に増加した結果、事務局の負担も大幅に増えてきています。またより複雑化した公益社団法人会計業務についても職員、担当役員に負担をかけている現状があります。それらを軽減するために簡略化できるものはより簡素化し、委託できるものは外部に委託する方向で転換を進めています。

具体的には、29年度より秋の動物フェスティバルと長寿猫表彰を同日開催したこと、大幅に利用者が減少している平日午後のテレフォンドクターの開設日を30年度より週1回(水曜日)とし、夜間テレドクのみ継続すること、4月の狂犬病予防集合注射についても同様に利用者の少ない会場の整理統合や、開催時間の短縮を検討することでトータルの会員の出勤負担を少なくするよう進めているところです。さらに避妊去勢手術補助、鑑札済票交付委託に関してもレターパック等

の利用で月毎の書類提出をよりスムーズに行えるように配慮し、各病院事務の利便性向上につながるよう努めています。

これらの変更によって、何とか会員のメリットが少しでも向上し組織率のアップにつながることに、同時に役員負担を減らすことにもなり、安定的な組織運営が継続していけるよう願う次第です。それでも役員が不足する事態には、総会において正会員以外の賛助会員等から新たに理事を招聘し、個別の事業運営に協力いただくことも考慮すべきと考えます。

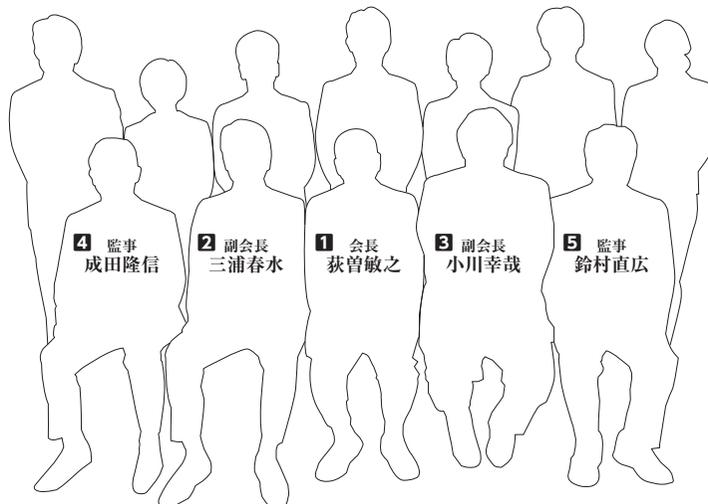
最後に、今後も名古屋市獣医師会が個々の会員にとって役員に就任することを躊躇するようなことがなく、参加協力しやすい事業を提供し、尚且つ社会的責任を果たしていける存在として継続していけることを祈念するものであります。

平成29年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 理事



平成29年5月28日 ローズコートホテルにて撮影

- 6** 理事 鷺塚 章
 7 理事 柴田恵美子
 8 理事 岡田 茂
 9 理事 菅沼英人
 10 理事 保田恭志
 11 理事 山岡新生
 12 理事 夏目里枝子



【担当委員会】

- 1** 狂犬病予防委員会/獣医療過誤対応/倫理委員会/制度調査委員会
2 情報公開(獣医事)/総務/会館運営委員会
3 会計
4 なし
5 なし
6 夜間診療所委員会
7 学校飼育動物委員会/福祉厚生委員会
8 動物愛護事業委員会
9 会誌委員会/ホームページ委員会/情報公開(新規)
10 動フェ実行委員会/集合注射対策委員会
11 学術委員会
12 動物看護師養成事業委員会/動物看護師認定委員会

平成29年度 狂犬病予防集合注射

集合注射対策委員会

■平成29年度狂犬病予防集合注射実施結果

1. 期間

平成29年 4月5日～4月25日

延日数 110日(209会場)

出勤獣医師延人数 241人

2. 実施頭数(会員報告をもとに事務局集計)

区	H29注射頭数	H28注射頭数	前年度比頭数
千種	1,121	1,228	-107
東	527	566	-39
北	1,420	1,502	-82
西	1,138	1,263	-125
中村	1,145	1,245	-100
中	538	563	-25
昭和	595	683	-88
瑞穂	779	832	-53
熱田	469	548	-79
中川	1,891	2,071	-180
港	1,539	1,761	-222
南	1,453	1,576	-123
守山	1,182	1,244	-62
緑	1,948	2,136	-188
名東	959	1,125	-166
天白	990	1,093	-103
計	17,694	19,436	-1,742



平成29年度 学校飼育動物委員会活動実績

学校飼育動物委員会

2017年春に行った名古屋市立小学校263校の飼育調査では33%が飼育を行っていました。これは5年前の調査の43%から減少しています。飼育の多くはうさぎですが、1頭飼いが多く、そのうさぎが亡くなってしまえば飼育は終わりという学校があります。依然として学校側は、学校飼育は面倒である、アレルギーや感染症の問題を保護者が理解しないから教師も避けてしまうという考えがあるようです。動物がもたらす教育の効果を知らないために大事な生きた教材を使わずにいます。獣医師が動物を飼うことによって得られるたくさんの恩恵を教師や保護者に伝えられるように活動ができればよいと思います。新聞で中学生や高校生の自殺が報道される度に、小さい頃から命を大切にする教育が必要であることを感じます。

本年度もベテランの先生方にも手伝っていただき18名の会員で活動を実施しました。8月には例年通り愛知県獣医師会との共催で教員を対象に愛知教育大学野田敦敬教授を招き市民公開講座を開催し、多数の名古屋市教育委員会の職員に参加していただきました。

小学校生活科の「動物ふれあい教室」は定着化し、獣医師会の委員もその活動に慣れてきました。児童飼育委員会への飼育指導、傷病動物の治療も例年と変わらず行いました。本年も「がっこういく」という冊子を作成して教育委員会を通じて全小学校に配布しています。

1. 動物ふれあい教室 6回(4校)

年月日	小学校	児童	参加獣医師 動物看護師
2017.6.24	御園小学校(中区)	1年 9名(1クラス)	2名
2017.7.3	荒子小学校(中川区)	1年185名(5クラス)支援あり	11名
2017.7.6	荒子小学校(中川区)	1年185名(5クラス)支援あり	11名
2017.10.10	山吹小学校(東区)	1年 67名(4クラス)	8名
2017.11.18	御園小学校(中区)	1年 9名(1クラス)	2名
2018.1.25	明正小学校(中川区)	1年 47名(2クラス)支援あり	4名

・荒子小学校1年生「動物ふれあい教室」開催

2017年7月3日、6日、中川区のジャンボ小学校・荒子小学校で児童150名(5クラス)の生活科授業において「動物ふれあい教室」を行ないました。2日に分けて開催し、飼育しているうさぎのひじきちゃんと他の小学校から借りてきたうさぎ5頭を使って、生き物の姿をよく観察し、ふれあってもらいました。軽いアレルギーのある子はマスクと手袋を着用し参加です。大声は出さない約束を忘れてしまうくらい、大興奮の1時間でした。



・山吹小学校1年生「動物ふれあい教室」実施

2017年10月10日(火)5限目。東区・山吹小学校1年生4クラスで生活科授業「動物ふれあい教室」を行ないました。港区・小碓小学校さんから2頭のうさぎ(ローズ、ココア)を、中川区・八熊小学校さんから2頭(クッキー、パン)をお借りして白水小学校の1頭(せんちゃ)と5頭で子ども達は楽しくふれあいができました。この小学校はモデル校とされ、児童は熱心にふれあいができ、よい時間がもてました。この小学校の教諭は理解があり、先生方に感謝します。

・明正小学校1年生「動物ふれあい教室」開催

2018年1月25日(木)、中川区・明正小学校で1年生の「動物ふれあい教室」を行ないました。担任の先生方は子ども達の嬉しそうな顔を見て満足そうでした。授業後、教頭先生が応接室で話を聞いてくださり、こういった授業がまたできることを期待します。生活科授業の中ではいろんな取り組みがある内、動物とふれあうこの機会は子ども達の心に残るものとなることを願っています。



2. 飼育指導 8校

指導校	飼育動物	指導獣医師	指導校	飼育動物	指導獣医師
豊治小学校(中川区)	うさぎ	柴田	名城小学校(中区)	うさぎ	後藤
八熊小学校(中川区)	うさぎ	福田	山吹小学校(東区)	うさぎ	小島健治
明倫小学校(東区)	うさぎ	水野(雅)	広路小学校(昭和区)	うさぎ	松波
小碓小学校(港区)	うさぎ	滝本	南陵小学校(緑区)	うさぎ	森島

3. トワイライトスクール「動物ふれあい教室」

年月日	内容	テーマ	場所
2017.4.28	動物ふれあい教室	「ハムスターを知ろう」	荒子トワイライトスクール
2017.6.2	動物ふれあい教室	「猫について知ろう」	荒子トワイライトスクール
2017.8.25	動物ふれあい教室	「猫のおもちゃをつくる」	荒子トワイライトスクール
2017.10.27	動物ふれあい教室	「動物の気持ち」	荒子トワイライトスクール
2017.12.22	動物ふれあい教室	「犬、猫の祖先」	荒子トワイライトスクール
2018.2.22	動物ふれあい教室	「犬と英語を楽しむ」	荒子トワイライトスクール

4. 市民公開講座(愛知県獣医師会共催) 教員対象の動物介在教育

「学校飼育の教育的意義」

日 時：2017年8月10日(日)

場 所：ウィンクあいち会議室

講 師：加納誠司先生(愛知教育大学准教授)

「学校教育で育む生命尊重の心と態度」

中村健太先生(岐阜聖徳学園大学附属小学校)

「中型動物飼育に見る動物飼育の意義」

野田敦敬先生(愛知教育大学教授)

「学校動物飼育の教育的意義と現状」

参加人数：65名(教員65名、内教育委員会指導室6名、獣医師18名、出版社他1名、
県議1名、その他1名)



5. 学校負傷動物治療

年月日	小学校	診療動物	病状
2016.3.28	第二幼稚園(千種区)	うさぎ	衰弱 内科治療
2016.5.2～	白水小学校(南区)	うさぎ	難治性皮膚疾患 真菌、 MRSA含め検査
2016.6.24	野並小学校(天白区)	うさぎ	導入の為検便、馴化
2016.7.16	鳴子小学校(南区)	ハムスター	直腸脱整復
2016.7.21	第一幼稚園(北区)	うさぎ	結膜炎
2016.8.23	篠原小学校(中川区)	ハムスター	頬袋炎
2016.8.30	桶狭間幼稚園(緑区)	うさぎ	前肢骨折 外固定
2016.9.3	大宝小学校(中川区)	うさぎ	前後肢麻痺 内科治療
2016.9.12	篠原小学校(中川区)	ハムスター	腫瘍
2016.12.28	荒子幼稚園(中川区)	セキセイインコ	衰弱
2016.12.27～ 2017.1.6	南陵小学校(緑区)	うさぎ	衰弱
2016.1.16	小碓小学校(港区)	うさぎ	急死 検死 児童説明
2016.1.20	大高幼稚園(緑区)	うさぎ	跛行 内科治療
2016.1.31	庄内小学校(西区)	うさぎ	眼球摘出
2016.3.27	荒子小学校(中川区)	うさぎ	老衰 児童説明

6. うさぎの譲渡

豊治小学校(中川区)へ2頭
(児童飼育委員会に飼育指導実施)

荒子幼稚園(中川区)へ1頭

明倫小学校(東区)へ2頭
(児童飼育委員会に飼育指導実施)

平成28年度 夜間動物緊急診療所報告

夜間診療所委員会

夜間動物緊急診療所は、2004年に開設してから約13年経ちます。業績の苦しかった時、または人手不足で難渋した時期もございましたが、会員の皆さまや協力病院の先生方のご尽力と現場スタッフの努力で来院数も順調に増えてまいりました。対外的な活動も積極的に行っており、手塚獣医師がRECOVERのインストラクターに認定されました。益本獣医師も一般のコースで認定を取得しスタッフで日々訓練を行っています。獣医師のみならず、看護師も専門教育を受けて獣医師に引けをとらない技術と知識を習得しています。退院率わずか5%の狭き門ではありますが、救急病院だからこそ、わずかではありますが救うことのできる症例のためにチームでこだわっていきたくと思っています。

スタッフ教育においても、学会などのあとには内容を検証する報告会、ジャーナルクラブ、日々のカンファレンスで充実してまいりました。今後は、Web上で公開し、会員の皆様にもご参加いただけるように工夫していくことも考えています。

人員確保には、まだまだ課題が残っておりますが、若い先生方が『ぜひ、名古屋の夜間診療所で勉強したい!』とさせていただけるように病院を作っていくことが一番の近道と思っています。

スタッフ一同頑張っておりますので、今後ともご支援よろしくお願ひ申し上げます。

公益社団法人名古屋市獣医師会夜間動物緊急診療所における 平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)の来院状況集計

総来院件数 3187

表1. 動物種の内訳 (頭)

犬	小型犬	1625
	中型犬	253
	大型犬	107
	合計	1985
猫		809
エキゾチック	ウサギ	225
	ハムスター	47
	鳥類	62
	フェレット	23
	その他	36
合計		393

表2. 年齢層の内訳 (頭)

犬	1歳未満	247
	1～4歳	454
	5～8歳	382
	9歳以上	900
	年齢不詳	2
	合計	1985
猫	1歳未満	186
	1～4歳	204
	5～8歳	128
	9歳以上	278
	年齢不詳	13
	合計	809

表3. 疾病分類 (頭)

消化器系	817
神経系	375
筋骨格系	332
不定愁訴	182
泌尿生殖器系	319
皮膚科	266
呼吸器系	211
緊急疾患	171
眼科	109
中毒	137
代謝疾患	32
免疫系	9
循環器系	102
内分泌系	25
感染症	18
血液疾患	22
腫瘍	39
その他	21

表4. 曜日毎来院数の内訳 (頭)

月	425
火	434
水	429
木	430
金	450
土	481
日	538

表5. 曜日毎平均来院数の内訳 (頭)

月	8.2
火	8.3
水	8.2
木	8.3
金	8.6
土	9.2
日	10.3
平均	8.7

表6. 毎月の来院件数 (頭)

2016. 4	253
2016. 5	303
2016. 6	236
2016. 7	278
2016. 8	291
2016. 9	281
2016.10	274
2016.11	260
2016.12	265
2017. 1	270
2017. 2	235
2017. 3	241

表7. 来院時間の内訳 (頭)

20～21時	140
21～22時	725
22～23時	730
23～0時	727
0～1時	526
1～2時	309
2時以降	30

表8. 来院地域の内訳 (頭)

名古屋市内	1972
愛知県	1017
愛知県外	198

表9. 名古屋市内の来院内訳 (頭)

昭和区	72
天白区	93
千種区	79
名東区	65
瑞穂区	100
守山区	36
緑区	145
東区	64
北区	89
熱田区	120
西区	140
南区	135
港区	152
中村区	168
中区	234
中川区	280

表10. 来院患者の内訳 (頭)

A	1155
B	555
C	262
D	1215

A：名古屋市在住で名古屋市獣医師会会員病院が主治医の患者

B：名古屋市在住で非会員病院が主治医の患者

C：名古屋市在住で特に主治医のいない患者

D：名古屋市外在住の患者

平成29年度 学術委員活動報告

学術委員会

学術委員会では、公衆衛生の向上を目的とした人獣共通感染症調査、傷病野生鳥獣保護事業や獣医師及び獣医療補助者に関する技術や知識の向上を図るための卒後教育セミナーや実技セミナーなどを中心に活動しております。

伴侶動物と人間の濃密な関係が引き起こす様々な事象が報道される昨今、特に獣医師が世間に対して注意喚起していかなければならない人獣共通感染症に関して当会では名古屋市の委託事業を長年にわたり継続し報告を行っております。平成29年度は「名古屋市で飼育されている猫の病原性大腸菌保有状況調査」を実施しました。病原性大腸菌の保有状況調査に関して昨年度は犬を対象としておりましたが、猫に置き換え異なる範囲の調査を行い伴侶動物の中心である犬と猫を含む環境における調査が限定的ではありますが実施できたと考えております。昨年度に続き鳥取大学・原田和記先生を招聘し「伴侶動物における薬剤耐性菌の現状と課題」の演目でセミナーを開催しました。また、ヒトの重症熱性血小板減少症(SFTS)に関しても伴侶動物との関連も報告され世間からも注目されることとなり、山口大学・前田健先生を招聘し「マダニ媒介SFTSに備えて」の演目でセミナーを開催しました。なお、平成28年度「名古屋市で飼育されている犬の病原性大腸菌保有状況調査」(本誌P.15に掲載)などの過去の調査結果は、名古屋市のホームページ<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000025355.html>に掲載されていますので、ご覧ください。

傷病野生鳥獣保護事業も名古屋市から当会へ委託されている事業であります。野生動物の保護や治療も積極的に取り組む姿勢を継続しております(平成28年度の実績は本誌P.22に掲載)。

本年度も前述の人獣共通感染症セミナー以外に、獣医師の卒後教育講習会を開催しました(平成29年度の開催実績は本誌P.13に掲載)。また講習会開催以外にも、獣医師教育の一環として新規教科書や海外学術誌の購入(平成29年度の定期購読雑誌や書籍は本誌P.12に掲載)にも力を入れております。

平成29年度 学術奨励金事業

学術委員会

会員の学術・診療技術向上のために、定められた要項に従い補助金を支給した。

平成29年度は、6例の申請があり、6名に支給した。

会員名(敬称略)	題名	学術研究団体名	発表日
1 小島健太郎	シンポジウム：「各施設における麻酔プロトコル/疼痛管理プロトコルの違いを考える」 一次診療施設におけるプロトコル	日本獣医麻酔外科学会	2017/12/10
2 鷺塚 章	シンポジウム：「腹腔内出血を見逃さず、救命する手順とは？」 イヌの腹腔内出血60症例の短期予後から学ぶ治療方針の再考	日本獣医麻酔外科学会	2017/12/10
3 滝山 昭	硝子体脱に起因すると考えられた重度の角膜潰瘍の三例	動物臨床医学会	2017/11/19
4 柴田恵美子	犬の移行上皮癌7症例におけるリン酸トセラニブとCOX2阻害薬の併用効果	動物臨床医学会	2017/11/19
5 桑原 康人	犬・猫の慢性腎臓病の進行をいかに防ぐか	動物臨床医学会	2017/11/19
6 青山 玲奈	犬の入院時における血清コルチゾール濃度の予後予測マーカーとしての有用性	獣医学術中部地区学会	2017/8/27

平成29年度 定期購読雑誌・書籍

学術委員会

下記、雑誌・書籍が閲覧可能です。是非、ご利用下さい。

●雑誌

- Journal of American Veterinary Medical Association(米国獣医師会雑誌)
【Print+電子ジャーナル】雑誌は1976年以降保管、電子ジャーナルは2000年以降ダウンロード可能
- Journal of Feline Medicine and Surgery(猫内科学外科学雑誌)
【電子ジャーナル】1999年以降ダウンロード可能
- Journal of Small animal practice(小動物臨床雑誌)
【電子ジャーナル】1997年以降ダウンロード可能
- Journal of Veterinary Emergency and Critical Care(獣医救命救急雑誌)
【電子ジャーナル】2014年以降ダウンロード可能

●商業誌

- SURGEON
- SA Medicine
- エキゾチック診療
- As(アズ)

●新規書籍

- 犬と猫の神経病学各論編 DAMNIT-V分類と代表的疾患
著：長谷川大輔、枝村一弥、齋藤弥代子 出版：緑書房(2015年)
- 犬と猫の治療薬ガイド2017
著：大草 潔、折戸謙介 出版：インターズー (2017年)
- Atlas of Small Animal CT and MRI
著：Erik Wisner, Allison Zwingerberger 出版：Wiley-Blackwell(2015年)
- Focused Ultrasound Techniques for Small Animal Practitioner
著：Gregory R. Lisciandro 出版：Wiley-Blackwell(2014年)

平成29年度 学術セミナー

学術委員会

■名獣JARMeCセミナー

講師：山崎寛文 先生（日本動物高度医療センター川崎 泌尿器科）

「上部尿路の外科」

日時 2017年6月29日(木) 13:30～15:30

場所 名古屋市獣医師会館

当日出席 22人



■名獣JARMeCセミナー

講師：藤井 豊 先生（日本動物高度医療センター名古屋 脳神経科）

「一般診療に役立つ神経疾患の画像診断」

日時 2017年9月21日(木) 13:30～15:30

場所 名古屋市獣医師会館

当日出席 17人



■名古屋市獣医師会学術セミナー

講師：原田和記 先生（鳥取大学 農学部共同獣医学科 臨床獣医学講座 獣医内科学教育研究分野
准教授 認定Infection Control Doctor）

「伴侶動物における薬剤耐性菌の
現状と課題」

日時 2017年10月16日(月) 13:30～15:30

場所 名古屋市獣医師会館

当日出席 28人



■名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー

講師：辻本 元 先生（東京大学 獣医内科学教室 教授 東京大学動物医療センター 血液腫瘍内科）

「DICと血栓症

—臨床に直結する最新の診断法と治療薬—」

日時 2017年11月22日(木) 21:00～23:00

場所 名古屋市獣医師会館

当日出席 43人

■名獣JARMeCセミナー

講師：山崎寛文 先生（日本動物高度医療センター川崎 泌尿器科）
「下部尿路の外科」

日 時 2017年12月14日(木) 13:30～15:30
場 所 名古屋市獣医師会館
当日出席 24人



■日小獣学術講習会

講師：中村篤史 先生（TRVA夜間救急動物医療センター 院長）
「ショックを制するものは、救急を制する！」

日 時 2018年1月14日(日) 13:00～17:30
場 所 名古屋市獣医師会館
当日出席 86人



■名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー

講師：林宝謙治 先生（JVBP幹事・埼玉動物医療センター 腫瘍科）
「『DICのお話し@治療編2018』
～ DICとの戦いかた～」

日 時 2018年1月24日(水) 21:00～23:00
場 所 名古屋市獣医師会館
当日出席 34人



■名古屋市獣医師会学術セミナー

講師：前田 健 先生（山口大学共同獣医学部 病態制御学講座 獣医微生物分野 教授）
「マダニ媒介SFTSに備えて
時間があればFIPとCDVも」

日 時 2018年2月4日(日) 13:00～16:00
場 所 名古屋市獣医師会館
当日出席 26人



■名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー

講師：川瀬広大 先生（札幌夜間動物病院）
「血液ガスとCPRにてROSC(心拍再開)後の管理について」

日 時 2018年3月28日(水) 21:00～24:00
場 所 名古屋市獣医師会館

名古屋市で飼育されている犬の糞便中の 病原性大腸菌の保有調査

1. はじめに

大腸菌は健康な人や動物の腸管内に生息する細菌であるが、人における腸管出血性大腸菌O157など、ある種の大腸菌は人や動物に下痢などの症状を引き起こす人獣共通感染症として知られている。病原性大腸菌は下痢性大腸菌(腸管内病原性大腸菌)と腸管外病原性大腸菌に大別される。病原性大腸菌の感染は、汚染された水や飲食物を介した経口感染がほとんどであり、家畜の排泄物に汚染された水や食肉などを介した腸管出血性大腸菌O157などの人への感染例がたびたび報告されている。一方、腸管外病原性大腸菌は非経口的に感染し、人や動物において感染臓器に障害を及ぼすことが知られている。

人の身近な存在である伴侶動物は人獣共通感染症の伝搬に寄与する可能性があるため、伴侶動物において病原性大腸菌の保有状況を知ることは重要である。伴侶動物である犬では糞便中に病原性大腸菌を保有していることは分かっているが、その保有状況や人への影響については十分に分からない¹⁻³。今回、効果的な人獣共通感染症対策に資することを目的に、名古屋市内で飼育されている犬の飼養実態調査とともに、下痢性大腸菌および腸管外病原性大腸菌の分布状況について調査したので、その公衆衛生上の知見を報告する。

2. 材料と方法

2.1. 検体

平成28年11月8日～12月9日の期間に、名古屋市内の動物病院に来院した犬の直腸スワブ112検体(各区7検体)を供試した。糞便中の病原性大腸菌検査は、鳥取大学農学部共同獣医学科に検査委託した。

2.2. 大腸菌の分離及び同定

スワブをDHL寒天培地(栄研化学)に塗抹後に一晚培養し、典型的な性状を示す赤色コロニーを採取した。さらに、そのコロニーをクロモアガーオリエンタシオン培地(関東化学)に塗抹後培養し、典型的な性状を示す薄紫色コロニーを採取した。その後、市販の菌種同定キットであるApi20E(シスメックス・ビオメリュー)を用いて、採取した菌株(1菌株/検体)を大腸菌と同定した。同定後の菌株は10%スキムミルクに浮遊させた後に、-80℃にて保管した。

2.3. PCRによる病原性遺伝子の検出

保管しておいた菌株を寒天培地に塗抹し得られたコロニーを3～4個採取した。そのコロニーを滅菌蒸留水に浮遊させ10分間煮沸処理を行った。その後、12000 rpmで5分間遠心処理を行い得られた上清をDNAテンプレートとした。

下痢性病原遺伝子の検出は、Fujiokaらのプロトコル⁴に準拠したマルチプレック

スPCRにより行った。合計25µlのPCR混合液とし、その組成には5.0µlのDNAテンプレート、1×ExTaq Buffer、2.0mM MgCl₂、200µM dNTP、0.25µM *stx1* フォワード/リバースプライマー (F/R)、0.20µM *stx2* F/R、0.25µM *eae* F/R、0.25µM *bfpA* F/R、0.20µM *aggR* F/R、0.10µM *elt* F/R、0.20µM *esth* F/R、0.5µM *estp* F/R、0.50µM *invE* F/R、0.25µM *astA* F/R及び1.25 U ExTaq(タカラバイオ)が含有された。PCRの条件は、初期熱変性94℃ 1分の後、熱変性、アニーリングおよび伸長反応をそれぞれ94℃で1分、55℃で1分、72℃で1分を1セットとして35サイクル行い、最終伸長は72℃で10分実施した。全てのPCR産物は、エチジウム・プロマイドを添加した2%アガロースゲルで電気泳動を行い、UVトランスイルミネーターを用いて目的とする遺伝子断片の増幅が確認されたものを陽性と判定した。各プライマーの遺伝子配列および産物の大きさは表1に示した通りである。

表1. 下痢原性病原遺伝子検出用プライマー

対象遺伝子	プライマー名	塩基配列 (5'末端から3'末端)	PCR産物の大きさ (bp)
<i>stx1</i>	<i>stx1</i> F	AGTTAATGTGGTGGCGAAGG	347
	<i>stx1</i> R	CACCAGACAATGTAACCGC	
<i>stx2</i>	<i>stx2</i> F	TTCGGTATCTATTTCCCGG	589
	<i>stx2</i> R	CGTCATCGTATACACAGGAG	
<i>eae</i>	<i>eae</i> F	CCCGAATTCGGCACAAGCATAAGC	881
	<i>eae</i> R	CCCGGATCCGTCTCGCCAGTATTCCG	
<i>bfpA</i>	<i>bfpA</i> F	AATGGTGCTTGCCTTGCTGC	324
	<i>bfpA</i> R	GCCGCTTTATCCAACCTGGTA	
<i>aggR</i>	<i>aggR</i> F	GTATACACAAAAGAAGGAAGC	254
	<i>aggR</i> R	ACAGAATCGTCAGCATCAGC	
<i>elt</i>	<i>elt</i> F	AACGTTCCGGAGGTCTTATG	511
	<i>elt</i> R	CAACCTTGTTGTCATGATG	
<i>esth</i>	<i>esth</i> F	TTCACCTTTCCCTCAGGATG	172
	<i>esth</i> R	ATAGCACCCGGTACAAGCAG	
<i>estp</i>	<i>estp</i> F	ACTGAATCACTTGACTCTTCA	120
	<i>estp</i> R	TCACAGCAGTAAAATGTGTTGT	
<i>invE</i>	<i>invE</i> F	GCAGGAGCAGATCTTGAAG	208
	<i>invE</i> R	GAAAGGCACGAGTGACTTTC	
<i>astA</i>	<i>astA</i> F	CCATCAACACAGTATATCCG	101
	<i>astA</i> R	ACGGCTTTGTAGTCCTTCCA	

腸管外病原性遺伝子の検出は、Yamamotoらのプロトコール⁵に準拠したマルチプレックスPCRにより行った。合計25µlのPCR混合液とし、その組成には2.5µlのDNAテンプレート、1×ExTaq Buffer、1.25mM MgCl₂、250µM dNTP、0.4µM *pap* F/R、0.4µM *sfa* F/R、0.4µM *afa* F/R、0.6µM *hly* F/R、0.4µM *aer* F/R、0.4µM *cnf* F/R及び1.0 U ExTaq(タカラバイオ)が含有された。PCRの条件は、初期熱変性94℃ 3分の後、熱変性、アニーリングおよび伸長反応をそれぞれ94℃で1分、63℃で30秒、72℃で3分を1セットとして30サイクル行い、最終伸長は72℃で7分実施した。全てのPCR産物は、エチジウム・プロマイドを添加した2%アガロースゲルで電気泳動を行い、UVトランスイルミネーターを用いて目的とする遺伝子断片の増幅が確認されたものを陽性と判定した。各プライマーの遺伝子配列および産物の大きさは表2に示した通りである。

表2. 腸管外病原性遺伝子検出用プライマー

対象遺伝子	プライマー名	塩基配列 (5'末端から3'末端)	PCR産物の大きさ (bp)
<i>pap</i>	pap3	GCAACAGCAACGCTGGTTGCATCAT	336
	pap4	AGAGAGAGCCACTCTTATACGGACA	
<i>sfa</i>	sfa1	CTCCGAGAACTGGGTGCATCTTAC	410
	sfa2	CGGAGGAGTAATTACAAACCTGGCA	
<i>afa</i>	afa1	GCTGGGCAGCAAACCTGATAACTCTC	750
	afa2	CATCAAGCTGTTTGTTCGTCGCCCG	
<i>hly</i>	hly1	AACAAGGATAAGCACTGTTCTGGCT	1177
	hly2	ACCATATAAGCGGTCATTCCCGTCA	
<i>aer</i>	aer1	TACCGGATTGTCATATGCAGACCGT	602
	aer2	AATATCTTCTCCAGTCCGGAGAAG	
<i>cnf</i>	cnf1	AAGATGGAGTTTCCCTATGCAGGAG	498
	cnf2	CATTCAGAGTCTGCCCTCATTATT	

2.4. 調査対象犬の環境調査

調査対象となる犬について、以下の項目の調査を実施した。

(1) 飼育動物

- ① 犬種
- ② 性別：雄 雌 去勢雄 避妊雌
- ③ 年齢
- ④ マイクロチップ：装着 装着無し 不明
- ⑤ 狂犬病ワクチン接種歴(今年度)：接種 未接種 不明
- ⑥ 混合ワクチン接種歴：接種(1年以内) 接種(3年以内) 未接種 不明
- ⑦ 消化器疾患以外の既往歴
- ⑧ 抗生物質の投与歴：有 無 不明
- ⑨ 現在の食欲：食欲あり 食欲なし
- ⑩ 便の状態：良便 下痢便

(2) 飼育状況

- ① 飼育場所：完全室内飼育 室内と屋外を出入り 完全屋外飼育
- ② 食餌内容：ドライフード 缶詰 ドライフードと缶詰 その他
- ③ トイレの場所：室内 屋外 室内と屋外
- ④ 同居の動物：犬 猫 犬と猫 その他 無

(3) 飼育者の住居

- ① 住居区
- ② 住居：一戸建 マンション・アパート その他

(4) 飼育者と飼育動物との関係(これまで経験のあるものを回答)

- ① 飼育動物に咬まれる：有 無
- ② 飼育動物に引っかかる：有 無
- ③ 飼育動物と同じ箸やスプーンを使って食事をする、キスをする：有 無
- ④ 飼育動物と同じ寝具で眠る：有 無

2.5. 統計

病原性大腸菌の陽性率に関連する因子の抽出として、陽性群と陰性群に分けて2群間の飼育動物と飼育状況の各調査項目について単変量解析で評価した。各因子は自然区分により2区分変数に変換し、フィッシャーの正確確率検定を行い、 $p < 0.05$ を有意水準とした。

3. 結 果

3.1. 犬糞便における大腸菌の保有状況

採取された犬直腸スワブ112検体のうち109検体から大腸菌が分離された。

3.2. 犬糞便由来大腸菌における下痢原性病原遺伝子の保有状況

下痢原性病原遺伝子の検出結果を表3に記載する。分離された109株の糞便由来大腸菌のうち、*stx2*(志賀毒素遺伝子)のみを保有する腸管出血性大腸菌(EHEC)が2株(1.8%)、*eae*(インチミン)のみを保有する腸管病原性大腸菌(EPEC)が3株(2.8%)、*astA*(耐熱性毒素遺伝子)のみを有するその他の病原性大腸菌が4株(3.7%)検出された。

表3. 犬糞便由来大腸菌109株における下痢原性病原遺伝子の保有状況

EHEC		EPEC		EAggEC	ETEC			EIEC	Others
<i>stx1</i>	<i>stx2</i>	<i>eae</i>	<i>bfpA</i>	<i>aggR</i>	<i>elt</i>	<i>esth</i>	<i>estp</i>	<i>invE</i>	<i>astA</i>
0(0)	2(1.8)	3(2.8)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(3.7)

EHEC: 腸管出血性大腸菌、EPEC: 腸管病原性大腸菌、EAggEC: 腸管凝集付着性大腸菌、ETEC: 腸管毒素原性大腸菌、EIEC: 腸管侵入性大腸菌、Others: 他の下痢原性大腸菌

3.3. 犬糞便由来大腸菌における腸管外病原性遺伝子の保有状況

腸管外病原性遺伝子の検出結果を表4に記載する。調査対象とした遺伝子のうち、*sfa*(S線毛)が最も多く検出され、56株(51.4%)が保有していた。次いで、*cnf*(細胞毒性壊死因子)が37株(33.9%)に、*pap*(腎盂腎炎関連線毛)が33株(30.3%)に、*aer*(エアロバクチン)が25株(22.9%)に、*hly*(ヘモリシン)が23株(21.1%)に、それぞれ検出された。

表4. 犬糞便由来大腸菌109株における腸管外病原性遺伝子の保有状況

<i>pap</i>	<i>sfa</i>	<i>afa</i>	<i>hly</i>	<i>aer</i>	<i>cnf</i>
33(30.3)	56(51.4)	0(0)	23(21.1)	25(22.9)	37(33.9)

3.4. 調査票の集計

(1) 飼育動物

- ①犬種: トイ・プードル19頭、ミニチュア・ダックスフンド13頭、チワワ11頭、柴8頭、ゴールデン・レトリバー、雑種が各6頭、ポメラニアン、マルチーズ、シェットランド・シープドッグが各4頭、パピヨン、ジャック・ラッセル・テリア、バグ、ウェルシュ・コーギーが各3頭、ヨークシャー・テリア、シーズー、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、秋田、イタリアン・グレーハウンド、ミニチュア・ピンシャー、ミニチュア・シュнауザーが各2頭、イングリッシュ・スプリング・スパニエル、イングリッシュ・コッカー・スパニエル、ダルメシアン、ビーグル、ボストン・テリア、ドーベルマン、日本スピッツ、ボーダー・コリー、ラブラドル・レトリバー、スタンダード・プードル、フラット・コートド・レトリバーが各1頭であった。
- ②性別: 雄22頭(19.6%)、雌19頭(17.0%)、去勢雄34頭(30.4%)、避妊雌37頭(33.0%)であった。
- ③年齢: 中央値8.7歳(範囲0.3 ~ 17.8歳)であった。
- ④マイクロチップ: 装着27頭(24.1%)、装着無し80頭(71.4%)、不明5頭(4.5%)であった。
- ⑤狂犬病ワクチン接種歴(平成28年度): 接種96頭(85.7%)、未接種12頭(10.7%)、不明4頭(3.6%)であった。
- ⑥混合ワクチン接種歴: 接種1年以内94頭(83.9%)、接種3年以内5頭(4.5%)、未接種11頭(9.8%)、不明2頭(1.8%)であった。

- ⑦消化器疾患以外の既往歴：有38頭(33.9%)で内訳は皮膚疾患7頭、アレルギー性疾患、泌尿器疾患(結石症4頭、膀胱炎1頭)が各5頭、外耳炎、腫瘍疾患(扁平上皮癌2頭、乳腺腫瘍、口腔内腫瘍各1頭)、心臓疾患が各4頭、肝疾患、脳神経疾患(脊髄脳炎、椎間板ヘルニア各1頭)、膝蓋骨脱臼が各2頭、気管支炎、糖尿病、鼻炎、その他が各1頭であった。
 - ⑧抗生物質の投与歴：有65頭(58.0%)、無34頭(30.4%)、不明13頭(11.6%)であった。
 - ⑨現在の食欲：食欲あり107頭(95.5%)、食欲なし5頭(4.5%)であった。
 - ⑩便の状態：良便104頭(92.9%)、下痢便8頭(7.1%)であった。
- (2)飼育動物
- ①飼育場所：完全室内飼育92頭(82.1%)、室内と屋外を出入り18頭(16.1%)、完全屋外飼育2頭(1.8%)であった。
 - ②食餌内容：ドライフード81頭(72.3%)、缶詰6頭(5.4%)、ドライフードと缶詰11頭(9.8%)、その他14頭(12.5%)であった。
 - ③トイレの場所：室内40頭(35.7%)、屋外34頭(30.4%)、室内と屋外38頭(33.9%)であった。
 - ④同居の動物：犬30頭(26.8%)、猫10頭(8.9%)、犬と猫8頭(7.1%)、その他22頭(19.6%)、無42頭(37.5%)であった。
- (3)飼育者の住居
- ①住居区：各区7頭であった。
 - ②住居：一戸建78頭(69.6%)、マンション・アパート34頭(30.4%)であった。
- (4)飼育者と飼育動物との関係(これまで経験のあるものを回答)
- ①飼育動物に咬まれる：有81頭(72.3%)、無31頭(27.7%)であった。
 - ②飼育動物に引っかかる：有94頭(83.9%)、無18頭(16.1%)であった。
 - ③飼育動物と同じ箸やスプーンを使って食事をする、キスをする：有85頭(75.9%)、無27頭(24.1%)であった。
 - ④飼育動物と同じ寝具で眠る：有65頭(58.0%)、無47頭(42.0%)であった。

3.5. 犬糞便由来大腸菌における下痢原性病原遺伝子および腸管外病原性遺伝子の保有状況と環境要因

下痢原性病原遺伝子および腸管外病原性遺伝子の保有状況と環境要因との関連を表5に示す。下痢原性病原遺伝子において、3年を超えて混合ワクチン接種の無い犬のオッズ比は5.81と有意に陽性率が高かった(95%信頼区間：1.22-27.74、 $p=0.045$)。

4. 考 察

名古屋市飼育犬112頭のうち下痢原性病原遺伝子が検出されたのは9頭(8.0%)と、下痢原性大腸菌の保有率は非常に低いことが今回の調査で明らかとなった。したがって、少なくとも名古屋市の飼育犬は下痢原性大腸菌の人にとって主要なリザーバーではないことが示唆される。同様の調査は、これまで国内では東京都で犬の糞便における下痢原性大腸菌の保有状況が報告されているだけである¹。この報告では腸管毒素原性大腸菌(ETEC)のみが10.3%の割合で検出されており、ETECではなく腸管出血性大腸菌(EHEC)などが検出された今回の結果と比較するとやや傾向が異なる。このような傾向の違いの要因として、地域差によるもの(東京都と名古屋市)や調査対象施設(主として動物飼養施設と動物病院)が異なることが挙げられる。また、同報告の中では動物飼養施設内(ブリーダーなど)の犬間で下痢原性大腸菌の水平伝播が生じることも併せて報告されている。こうした水平伝播は病原性大腸菌の保有率に大きな影響を与える

と思われるが、今回の調査では同居犬の存在が保有率に影響を与えない傾向がみられたことから、伴侶動物の環境下では水平伝搬の影響はそれほど重要ではない可能性が高い。しかしながら、今後、名古屋市でもブリーダーなどで同様の調査を行い今回の結果と比較検討することで、地域差や水平伝搬についての意義のある知見が得られるかもしれない。他に病原性大腸菌の保有率に影響を与える因子としては、下痢の犬で高率に病原性大腸菌がみられるとの報告がある⁶。今回の調査では、下痢の犬は8頭と少ないものの、いずれの動物でも下痢原性病原遺伝子は検出されなかった。一方で、ワクチン未接種の動物ではオッズ比5.81と高率に下痢原性病原遺伝子が検出されることが明らかになった。これは犬へのワクチン接種が病原性大腸菌の保有に影響するというよりは、ワクチン接種をしない動物の飼育環境要因がこの結果に影響を与えたのかもしれない。このように、これまでの研究はサンプル数が少なく交絡因子の影響を加味されていないため、特定の影響要因を決定するにはいずれの結果の信頼性は高くないと思われる。この解明のためには集積された大規模調査が必要であろう。

表5. 下痢原性病原遺伝子および腸管外病原性遺伝子の保有状況と環境要因

要 因	頭数	下痢原性病原遺伝子			腸管外病原性遺伝子			
		陽性数		p値	陽性数		p値	
飼育動物								
性 別	雄	56	2	12.5%	0.16	41	73.2%	1.00
	雌	56	7	3.6%		42	75.0%	
中性化	無	41	5	12.2%	0.28	30	73.2%	1.00
	有	71	4	5.6%		53	74.6%	
年 齢	≤8歳	56	4	7.1%	1.00	45	80.4%	0.20
	>8歳	56	5	8.9%		38	67.9%	
マイクロチップ	無	80	8	10.0%	0.44	59	73.8%	0.80
	有	27	1	3.7%		21	77.8%	
ワクチン：狂犬病	無	12	2	16.7%	0.21	6	50.0%	0.08
	有	96	6	6.3%		73	76.0%	
ワクチン：混合	無(>3年)	11	3	27.3%	0.045*	10	90.0%	0.28
	有	99	6	6.1%		72	72.7%	
既往疾患	無	74	6	8.1%	1.00	58	78.4%	0.18
	有	38	3	7.9%		25	65.8%	
抗生物質の使用歴	無	35	3	8.6%	0.69	27	77.1%	0.64
	有	65	4	6.2%		46	70.8%	
食 欲	無	5	0	0.0%	—	3	60.0%	0.60
	有	107	9	8.4%		80	74.8%	
下 痢	無	104	9	8.7%	—	79	76.0%	0.20
	有	8	0	0.0%		4	50.0%	
飼育状況								
飼育環境	完全室内	92	8	8.7%	1.00	71	77.2%	0.16
	他	20	1	5.0%		12	60.0%	
食 餌	完全ドライ	81	7	8.6%	1.00	61	75.3%	0.64
	他	31	2	6.5%		22	71.0%	
トイレ環境	完全室内	40	5	12.5%	0.27	30	75.0%	1.00
	他	72	4	5.6%		53	73.6%	
同居動物・他の犬	無	74	7	9.5%	0.72	51	68.9%	0.11
	有	38	2	5.3%		32	84.2%	

※ 有意水準、p<0.05

名古屋市の飼い犬では腸管外病原性遺伝子を83頭(74.1%)が保有しており、下痢病原性病原遺伝子よりも高率に保有することが明らかとなった。これまで犬由来大腸菌において、下痢病原性病原遺伝子と腸管外病原性遺伝子を同時に調査した報告はないが、過去の報告でもやはり犬糞便由来大腸菌における腸管外病原性遺伝子の保有率は比較的高い。国内の犬の糞便由来大腸菌(n=30)における*pap*、*hly*、*cnf*、*sfa*、及び*aer*の保有率はそれぞれ32%、31%、30%、27%及び6%であったとの報告や²、健康犬(n=34)の糞便由来大腸菌で、*sfa*、*pap*、*hly*、*cnf*及び*aer*の保有率はそれぞれ32.4%、26.5%、26.5%、26.5%及び11.8%であったとの報告がある³。これらの報告と比較すると、今回の病原遺伝子検出率はほぼ同等な傾向にあると言える。犬が保有する腸管外病原性大腸菌が家族に伝播し感染症を発症させたことを直接的に証明した報告は現時点では存在しないが、飼い犬と家族間の共有化を証明した報告は少なからず存在している^{3,7}。今回の調査でも、飼育者と飼育動物との関係の調査項目はいずれも高い割合で過度な接触を示すものであった。家庭内での伝播を可能な限り低減させるためにも、日々の家庭内での衛生管理(手指消毒やこまめなトイレの清掃など)はもちろんのこと、飼育動物と同じ箸やスプーンを使って食事をする事や同じ寝具で眠るなど、動物との過度な接触を避けることを心がけることが推奨される。

5. 参考文献

- [1] 畠山薫、奥野ルミ、小西典子、下島優香子、尾畑浩魅、遠藤美代子、柳川義勢. ペット動物における病原大腸菌の保有実態調査. 東京健安研七年報. 57: 77-81, 2006.
- [2] Yuri K, Nakata K, Katae H, Yamamoto S, Hasegawa A. Distribution of uropathogenic virulence factors among *Escherichia coli* strains isolated from dogs and cats. J Vet Med Sci. 60:287-290, 1998.
- [3] Harada K, Okada E, Shimizu T, Kataoka Y, Sawada T, Takahashi T. Antimicrobial resistance, virulence profiles, and phylogenetic groups of fecal *Escherichia coli* isolates: A comparative analysis between dogs and their owners in Japan. Comp Immunol Microbiol Infect Dis. 35:139-144, 2012.
- [4] Fujioka M, Otomo Y, Ahsan CR (2013) A novel single-step multiplex polymerase chain reaction assay for the detection of diarrheagenic *Escherichia coli*. J Microbiol Methods. 92:289-92, 2013.
- [5] Yamamoto S, Terai A, Yuri K, Kurazono H, Takeda Y, Yoshida O. Detection of urovirulence factors in *Escherichia coli* by multiplex polymerase chain reaction. FEMS Immunol Med Microbiol.12:85-90, 1995.
- [6] Hammermueller J, Kruth S, Prescott J, Gyles C. Detection of toxin genes in *Escherichia coli* isolated from normal dogs and dogs with diarrhea. Can J Vet Res. 59:265-70, 1995.
- [7] Johnson JR, Clabots C. Sharing of virulent *Escherichia coli* clones among household members of a woman with acute cystitis. Clin Infect Dis. 2006, 43:e101-108.

平成28年度 傷病野生鳥獣保護活動集計

学術委員会

■傷病の状況・結果別保護件数

平成28年4月～平成29年3月

	傷病の状況							結果				
	衝突・転落	病気	骨折	咬傷・外傷	衰弱	その他	合計	放鳥	死亡	保護	不明	合計
平成28年 4月	4			3	1	1	9		2	3	4	9
5月	3			2	5	1	11	4	2		5	11
6月	4		2	3	6	1	16	4	2	3	7	16
7月	7		1	4	4	2	18	4	8	1	5	18
8月	5	1		3	1	2	12	5			7	12
9月	4			3		2	9	4	2	1	2	9
10月	3		1	8	2		14	1	4	1	8	14
11月	7		2	1	1	1	12	2	3		7	12
12月	1			2	2	1	6	3	1	1	1	6
平成29年 1月	1			4	1	1	7	2	3		2	7
2月	1		1	1			3		2		1	3
3月	3		1			1	5	2	1		2	5
合計	43	1	8	34	23	13	122	31	30	10	51	122

■種別保護件数

平成28年4月～平成29年3月

	平成28年										平成29年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
アオバト			1						2				3	
イワツバメ					1								1	
オオバン							1						1	
カラス			3	1		1						1	6	
カワウ	1												1	
カワセミ						1							1	
キジ								1					1	
キジバト			1	1	2				1				5	
ゴイサギ			1										1	
コノハズク								1	1				2	
コミミズク										1			1	
シギ									1				1	
ジョウビタキ									1				1	
スズメ	1	6	6	7	2	1				1			24	
タスキ	2		1	1					1	1			6	
チュウサギ									1				1	
ツバメ		1	1	2	2	1							7	
ドバト	1	1		1	4	5	5	2	4	3	1	1	28	
ノスリ									1				1	
ハクビシン												1	1	
ヒヨドリ		1		2								1	4	
ムクドリ		1		2				3		1			7	
メジロ	3			1				1		1	1	1	9	
ヤガモ			1										1	
ヨタカ								1					1	
不明鳥	1	1	1		1		1	1			1		7	
合計	9	11	16	18	12	9	14	12	6	7	3	5	122	

平成28年度 テレフンドクター集計結果報告書

動物愛護事業委員会

1. 開設日数 **132** 日

2. 動物種別相談件数

	犬	猫	飼鳥	野鳥	エキゾチック	その他	合計
件数	80	137	3	2	6	2	230

3. エキゾチックアニマルの相談件数

ウサギ	ハムスター	リス	カメ	モルモット	フェレット	プレーリードッグ	金魚
2	2	0	0	0	1	0	0
イグアナ	アライグマ	サル	リスザル	コウモリ	モモンガ	ワラビー	ハリネズミ
0	0	1	0	0	0	0	0
スカンク	イタチ	ウーパールーパー	カエル	フクロキツネ	魚	カブトムシ	チンチラ
0	0	0	0	0	0	0	0
タヌキ	トカゲ	ヘビ	ネズミ	その他	不明	合計	
0	0	0	0	0	0	6	

4. 相談者の住所別調査

	名古屋市内	県内(市内除く)	近隣地区	遠隔地区	不明	合計
犬	51	7	1	14	7	80
猫	77	24	9	20	7	137
飼鳥	3	0	0	0	0	3
野鳥	0	0	0	0	2	2
エキゾチック	2	2	0	1	1	6
その他	2	0	0	0	0	2
合計	135	33	10	35	17	230

近隣地区…岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井

5. 名古屋市内16区別の相談件数

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田
犬	1	3	4	0	3	10	10	1	1
猫	6	5	11	9	4	7	10	4	2
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	8	8	15	9	8	17	20	5	3

	中川	港	南	守山	緑	天白	名東	不明	合計
犬	4	3	4	1	2	0	3	1	51
猫	9	2	1	1	2	2	1	1	77
飼鳥	0	0	0	1	0	1	1	0	3
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	1	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計	13	5	5	3	4	4	5	3	135

6. 愛知県内(市内除く)、近隣地区

	愛知	岐阜	三重	静岡	長野	滋賀	合計
犬	7	0	1	0	0	0	8
猫	24	1	7	0	0	1	33
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	2	0	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	33	1	8	0	0	1	43

7. 遠隔地からの相談件数

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木
犬	0	0	0	0	0	0	0	0	0
猫	0	0	0	0	0	0	1	0	1
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	1	0	2

	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	新潟	富山	石川
犬	0	1	0	4	2	0	1	0	0
猫	0	1	1	2	1	2	0	0	0
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2	1	6	3	2	1	0	0

	福井	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山
犬	0	1	2	0	0	1	0	0	0
猫	0	0	8	0	0	0	0	0	0
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	10	0	0	1	0	0	0

	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎
犬	0	0	0	2	0	0	0	0	0
猫	1	1	0	0	0	0	1	0	0
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	0	2	0	0	1	0	0

	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	アジア	アメリカ	その他	合計
犬	0	0	0	0	0	0	0	0	14
猫	0	0	0	0	0	0	0	0	20
飼鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エキゾチック	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	35

8. 相談内容と内訳

	治療相談	一般知識	避妊・去勢	伝染病予防	行政関係	その他	合計
犬	46	7	1	0	0	4	58
猫	69	10	5	1	3	11	99
合計	115	17	6	1	3	15	157

9. 治療相談の内容と内訳

	内 科							合計
	消化	循環	呼吸	泌尿	生殖	眼	歯・口腔	
犬	18	13	1	4	6	2	0	
猫	6	3	13	35	0	2	2	
合計	24	16	14	39	6	4	2	
	内 科						合計	
	耳鼻	皮膚・爪	神経	内部寄生虫	外部寄生虫	その他		
犬	0	5	4	1	0	3	57	
猫	2	4	3	2	0	12	84	
合計	2	9	7	3	0	15	141	

	外 科				合計
	外傷	骨折	捻挫	その他	
犬	1	0	0	5	6
猫	4	1	0	5	10
合計	5	1	0	10	16

	人獣共通伝染病				合計
	皮膚真菌	狂犬病	微生物	その他	
犬	0	0	0	0	0
猫	0	0	0	1	1
合計	0	0	0	1	1

平成29年度 長寿猫飼主表彰式 長寿猫写真展

動物愛護事業委員会

長寿猫飼主表彰式は平成29年10月8日(日)動物フェスティバル・久屋大通公園で行われました。
表彰飼主は55名、長寿猫は最高齢23歳を含め58頭でした。

【 長寿猫飼主表彰式 表彰状と記念品の授与 】



【 長寿猫写真展 】



【 表彰長寿猫 集計結果 (性別・年齢内訳) 】

年齢	20才	21才	22才	23才	合計
♂	11	3	1	0	15
♀	25	9	6	3	43
合計	36	12	7	3	58



平成29年度 東山動物園の長寿動物への好物寄贈

動物愛護事業委員会

平成29年度は9月18日
毎年、東山動物園で「長寿動物を祝う会」が開かれます。それに合わせて今年は、下記のオオアリクイ（名前アント）に、長寿のお祝いとして好物の食虫目ペレット27kg（アントの食事3か月分）を寄贈しました。



オオアリクイ

Myrmecophaga tridactyla

- ・愛称 アント
- ・性別 オス
- ・年齢 24歳
- ・生年月日 1993年1月31日
- ・来園日 1993年8月7日

一日の採食量

食虫目ペレット300g、馬肉ミンチ500g、
ビートモス粉40g

オオアリクイについて

中央アメリカから南アメリカにかけて生息しています。体長1.2m、尾長0.9m、体重40～50kg、草原の蟻塚を見つけると、長い前肢の爪で塚を壊し、60cmにも及ぶ長い舌を素早く動かしてアリを食べます。舌は1分間に150回も突き出すことができます。生息環境破壊のため、絶滅危惧種に指定されています。

エピソード

今年で24歳となったアントは1993年1月31日にアメリカのサンタバーバラ動物園で誕生し、その年の8月に東山動物園へ来園しました。当時、オオアリクイは自然動物館の夜行性コーナーで飼育されており、一緒にいた野生生まれのメスとの間には子供は生まれませんでした。2008年に来園したエミと現在の食肉小獣舎へ移動し、東山動物園で初のオオアリクイの繁殖に成功しました。その時生まれたフジオはすでに2頭のお父さんとなり、現在は静岡県日本平動物園で暮らしています。その後アメリカコーナーのリニューアルに伴い、現在のオオアリクイ舎に移動し、長女アイチ、次男さん平が誕生しました。さん平が誕生する頃にはアントも白髪交じりのおじいさんになってきており、発情中のエミを追いかけながら、疲れて寝てしまうこともありました。国内に13頭しかオオアリクイがいない中、3頭の父親として大活躍したアントですが、昨年アイルランドから新しくオスのサビオが来園して以降は、父親候補の座をサビオに譲り、ゆっくりとマイペースに生活しています。自慢の大きな尻尾の毛も若いころに比べだいたい薄くなってきて、白髪も目立つアントですが、食欲旺盛で暖かい季節には熱心にアリなどを探して歩き回っています。オオアリクイの平均寿命は15年ほどといわれていますが、飼育例が少なくまだ明らかになっていないことがたくさんあり、国内では31歳という最高齢記録があります。アントにもこれからも元気にマイペースに長生きして、ユニークなオオアリクイの魅力をたくさん伝えてほしいと思います。

平成29年度 絵本寄贈

動物愛護事業委員会



平成29年 8月10日(木)に寄贈

34年間継続寄贈しています

幼児期よりの「生命を尊重し豊かな心を育む」情操教育の一環として、名古屋市立幼保育園に今年度は15冊を一組にして10組、計150冊を寄贈しました。

毎年、名古屋市長に接見、会長より直接の手渡しを行っております。

寄贈図書

- ペンぎんたいそう
- やさいだいすき
- どんぐりむらのどんぐりえん
- ずっとずっといっしょだよ
- がたんごとんがたんごとん
- わくわくでんしゃしゅっぱつ
- ノラネコぐんだんおすしやさん
- こどもずかん どうぶつ・くだもの・やさい・のりもの・くるま・むし
- 小型絵本 バムとケロのにちようび
- ぐりとぐらのあいうえお
- かさちゃんです
- とんところ
- おべんとう
- ねないこだれだ
- ボードブック はらぺこあおむし

動物フェスティバル2017なごや

動物フェスティバル実行委員会

今年の動物フェスティバル2017なごやは、平成29年10月8日(日)に久屋大通公園久屋広場に開催されました。今年の動物フェスティバルは天候に恵まれ、多くの皆様にご来場頂きました。動物図画や長寿犬の表彰に加え長寿猫の表彰も行われました。ポニー馬車、ふれあい動物園やワンちゃんふれあい、警察犬、介助犬、盲導犬の模範演技、しつけ訓練の実演など、大人から子供まで多くの皆様楽しんで頂き大変ご好評頂きました。



行事	参加数	
フェスティバル参加者	25000	
長寿犬表彰(表彰者数)	114	
長寿猫表彰(表彰者数)	58	
譲渡ボランティア感謝状(贈呈者数)	24	
動物愛護週間の図画募集(応募者数)	630	
ボーイスカウト・ガールスカウト協力	80	
各コーナー・イベント	譲渡犬猫写真展 (名古屋市動物愛護センター)	500
	しつけ相談・動物愛護センター紹介 (名古屋市動物愛護センター)	270
	動物愛護クイズ&スタンプラリー (名古屋市動物愛護センター)	500
	ペットフード紹介 (日本ヒルズ・コルゲート(株)、ROYAL CANIN、日清ペットフード)	1500
	動物缶バッジ・サンバイザー作り、動物クイズ・紙芝居 (公社)日本愛玩動物協会	1500
	アニマルメイクアップ (学校法人・専門学校名古屋モード学園)	300
	ワンちゃんふれあい(ゆいちご動物園)	300
	ポニー馬車(ゆいちご動物園)	200

行事	参加数	
ふれあい動物園(ゆいちご動物園)	800	
盲導犬紹介((社福)中部盲導犬協会)	700	
介助犬体験((社福)日本介助犬協会)	600	
警察犬模範演技	400	
ボーイスカウトコーナー	200	
ガールスカウトコーナー	200	
健康相談((公社)名古屋市獣医師会)	22	
マイクロチップ紹介(㈱共立製薬)	500	
各コーナー・イベント	のみものコーナー (公社)名古屋市獣医師会	300
	乳牛クイズ・アイス販売 (名古屋市農業センター)	550
	なごや生物多様性センター紹介・動物バスル	300
	動物看護学院紹介 (名古屋市動物看護学院)	500
	保健所事業紹介 (名古屋市食品衛生課・保健所)	300
	しつけトレーニング実演 (名古屋市動物愛護推進員)	700
	動物愛護推進員コーナー (名古屋市動物愛護推進員)	1600



平成28年度 公益社団法人名古屋市獣医師会 動物看護師認定試験

動物看護師認定委員会

平成28年度公益社団法人名古屋市獣医師会動物看護師認定試験を、平成29年3月4日に実施致しました。当会のホームページで広報しましたところ、名古屋動物看護学院の学生7名が受験されました。当会、動物看護師認定委員の監督のもと、動物看護に関わる筆記試験・筆頭試験を行い認定試験といたしますが、2月23日に行われた名古屋動物看護学院卒業試験の合格者は筆記試験を免除されました。受験した7名のうち動物看護師認定委員会を経て、6名が合格者として同日、当会理事会に報告され、動物看護師認定が承認されました。

平成29年度 名古屋動物看護学院 報告

動物看護師養成事業委員会

名古屋動物看護学院は一年で即戦力のある動物看護師を養成する事を目指し、平成28年度より運営母体を名古屋市獣医師協同組合から名古屋市獣医師会に移行しました。

平成29年度は9名が当学院に入学し、9名が卒業予定となっており、全学生の就職が決まっています(平成30年2月現在)。

会員の皆様だけでなく、近隣の獣医師の先生方にも授業や病院実習などのご協力を頂き、他校にはない臨床に即した授業を実施しており、時代のニーズに合わせてカリキュラムの見直し、編成を行っています。本年度からは、猫にフォーカスを当てた授業や夜間動物緊急診療所のご協力を得て、夜間救急の現場の見学も実施いたしました。

特別授業を公開授業とし、酪農学園大学獣医学部名誉博士 森田正治先生、ケニア在住獣医師 神戸俊平先生、倉敷芸術科学大学 村尾信義先生をお招きして、現職の動物看護師の皆様にも授業に参加して頂き、卒後教育にも力をいれています。

どこの動物看護師専門学校も少子化のあおりを受け、年々入学者数が減少している反面、動物病院での人材不足というアンバランスな状態が続いているのが現状です。そのなかで、当学院は獣医師会が運営している強みを生かし、より特色のある教育を行う事ができ、利益のみを追求せずに動物医療に貢献できる動物看護師の養成ができると思います。

また、一人でも多くの臨床の現場で即戦力となる動物看護師を育てることで、動物病院の運営に役立てられる事業としたいと考えています。

この事業は会員の先生方からの推薦、名古屋動物看護学院学生募集のポスターの病院での掲示や、各病院のホームページでの学院のリンクなど、会員の先生方のご協力があって成り立っております。今後ともご理解とご協力の程よろしく願いいたします。

平成29年度 社会福祉法人 中部盲導犬協会への寄付

平成29年3月1日から平成30年2月28日までの寄付金合計金額は、以下のようになっています。

〔 合計金額 ￥ 42,339 〕

平成29年3月1日から平成30年2月28日までの会館野外自動販売機による寄附金合計金額は以下のようになっています。

〔 合計金額 ￥ 27,837 〕

平成29年度 交流会①

総務

平成29年5月28日(日)名古屋市獣医師会定期総会の後、ローズコートホテル大宴会場ローズルームにて開催されました。当日は名古屋市市議会議員 横井利明様、市議会議員 藤田和秀様、名古屋市健康福祉局 参事 池田功人様、食品衛生課 主幹 石川登紀子様、獣医務係長 木田桃子様、名古屋市東山動物園 園長 黒邊雅実様、名古屋市衛生研究所 微生物部長 柴田伸一郎様など多くの御来賓の方にお越し頂きました。また多くの賛助会員の企業の方々にもご参加頂き、盛大な交流会が催されました。



平成29年度 交流会②

福祉厚生委員会

2017年10月8日、動物フェスティバル終了後に恒例の会員交流会を栄・ヴォーノラウンジにて開催しました。今年は協賛企業さんからギター、トランペットの一芸があり楽しく観覧しました。ビンゴゲームも景品の一等賞にマリOTTホテルペア宿泊券を、その他ナガシマスパーランド招待券などちょっとはりこみました。残念なことに忙しすぎた当日に写真を撮り忘れ、委員の写真しか残っていません。悪しからずご了承ください。



張さんの耳鼻咽喉科医院の思い出

小島 健治

幼少期、外耳炎だったのか中耳炎だったのか定かではありませんが、しばしば耳痛に悩まされて、当時住んでいた家の近所にあった張さんという名前の先生の耳鼻咽喉科医院へ親に連れて行かれて治療を受けた思い出があります。その先生は当時70代ぐらいで、すでに高齢の先生だったと記憶しています。そして犬好きな先生でもありました。

ある日の事、またも耳の中が痛くなり、母親にこの医院へ連れて行かれて、診察や処置を受けるべく椅子(背もたれがあって上下する専用の椅子。正式名称は耳鼻治療台です。)に腰を掛けて、先生の準備が整うのを待っていました。

この医院の構造は昔ながらの平屋の日本家屋を改装したもので、奥に張さん一家の居住スペースがあり、廊下で診療室と繋がっている構造になっていたのですが、椅子に腰掛けて先生の準備を待っていると、建物の奥の方からどどどどどという廊下をけたたましく踏み鳴らす音が聞こえて来ました。

「あれ？ 何だろう？」とっていると、2頭の大柄な(当時の幼い私にはそう見えました)ふさふさしたポメラニアンが診療室に乱入して来て、耳鼻治療台に腰掛けている私の周りを、嬉しそうに尾を振って、わんわん鳴きながら駆け回り始めたのです。童話「ちびくろサンボ」に、椰子の木の下で4頭の虎が互いの尾に噛み付き、輪になって駆け回って、そのうちに溶けてバターになってしまうというエピソードがありましたが、それを思い起こさせる状況で、とても驚きました。

どうしたらよいか分からず椅子の上で身を固くしてじっとしていると、2頭の犬が私の周りを幾周か回ったところで奥さんが血相を変えて飛び込んで来て、「これこれ、ダメですよ。ごめんなさいね。」と言いながら看護師さんと二人で犬を抱きかかえて奥に連れて行きました。その後、もう1度だけ診療室へのポメラニアンの乱入を経験しているのですが、もしかするとこれは子供の緊張を和らげるために医院側が考えた、ちょっとした余興だったのかもしれませんが。う～ん、そんな訳ないか。かえって緊張しました。

ところで、皆さんご存知のように耳は聴力を司る機能とからだの平衡感覚を司る機能を併せ持っています。生物進化学的には、平衡感覚を司る機能の方が先に出来上がったと考えられています。動物は空を飛んだり、陸上を走ったり、水中を泳いだりする際に常に平衡感覚を司る受容器(以下、平衡覚器)で重力を感知して、自分のからだの傾きを知って無意識のうちに姿勢を制御しています。重力はこの地球上のどこにいても同じように作用しますので、脊椎動物でも無脊椎動物でも平衡覚器の構造には大差は無いといわれています。

脊椎動物では平衡覚と聴覚は同じ「膜迷路」という受容器で感知されます(図1)。もともとは平衡覚の受容器だったところに、時間的に遅れて、新たに聴覚を受容する機能が加わって膜迷路は作られたと考えられています。今で言う「同一空間をシェアする」ということですね。全く働きが異なる2つの受容器が生物の進化の過程で1つの器官の中で共存することになったという出来事は、とても興味深いことです。

○外耳道内への昆虫の侵入

話は変わりますが、ヒトの耳鼻咽喉科の臨床医である杉浦彩子氏の著書の中に外耳道内への昆虫の侵入について書かれています。著者は国立長寿医療研究センターの耳鼻咽喉科に勤務しているようですが、耳鼻咽喉科専門の救急外来で夏場に1日1件は、外耳道内への昆虫の侵入に遭遇するそうです。実に外耳道異物全体の半数弱が生物と言われていて、多いのは、ガ、ゴキブリ、ハエ、そしてクモだそうです。これらの昆虫が入ったのを放っておくと、外耳道は傷だらけになりますし、鼓膜損傷の危険も高まります。

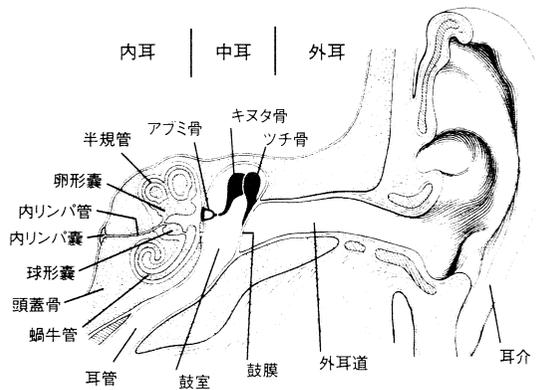


図1 ヒトの耳の概観

半規管、卵形嚢、内リンパ嚢、球形嚢、蝸牛管を合わせて膜迷路と呼びます。膜迷路は複雑な形をした袋であり、頭蓋骨でできた骨迷路という腔所に収まっています。

外耳道へ昆虫が入ったら、耳内に明かりを入れるようにする人がいますが、逆効果の場合があるので止めた方が良いでしょう。耳に入った昆虫がガなどであれば有効ですが、ゴキブリやクモはむしろ奥へ潜ろうとしてしまうので、侵入した昆虫の種類がわからない時には明かりは当てない方が良いでしょう。昆虫が外耳道へ侵入してしまった場合に、最も効果的なのは耳にオイルを注ぐことだそうです。普通の食用油で良く、オイルを注ぐことによって外耳道が保護されて傷ができにくくなりますし、昆虫を窒息させることができます。オイルを注いで出す、という行為を繰り返すと、窒息した虫が滑り出てくるというわけです。

耳鼻咽喉科における診療では、局所麻酔薬のキシロカイン・スプレーを耳内に吹き付けて、患者の痛みを取ると同時に耳に入ってしまった虫を麻痺、窒息させて安全に取り出す場合が多いそうです。ゴキブリが大の苦手な著者は、幸いそのような症例に出くわした経験はないそうですが、外耳道内のゴキブリ異物を診療したことのある耳鼻咽喉科医の話では、キシロカイン・スプレーを吹きかけた後に光を当てて、恐る恐る外耳道を覗きつつ、確かにいた虫を撮子でつまむと足だけがもげてくるし、潰したくはないので強くも摘まめなくて、取り出すのに難渋したそうです。また、医学論文で「外耳道異物、昆虫」というキーワードで検索すると、ゴキブリの論文がずらっと出てくるそうです。頻度も高いし、穴の奥へ入り込む習性があるので、鼓膜を損傷してしまうリスクが高く、出すにも苦勞するからだそうです。変わったところでは、ヒルが耳の中で血を吸っていたとか、クモが巣を張っていたという話があるそうです。

私が張さんのお世話になったのは中学2年生の夏が最終でした。その日、薬を付けた綿棒を持つ手がぶるぶる震えていたのを覚えています。そしてこれが最後の張さんの思い出になりました。それからしばらくして、お亡くなりになったと母親から聞かされました。医院は跡継ぎが無く廃院になりました。今の私は色々な方の助けのお陰で存在している訳なのですが、両耳の聴覚が健在で、現在の仕事が自由なくできるのも幼少期の張さんの適切な処置のお陰だと感謝をしている次第です。

図の出典並びに参考とした書籍

- ブルーボックス 図解・感覚器の進化 原始動物からヒトへ 水中から陸上へ 岩堀修明著 講談社
- ブルーボックス 驚異の小器官 耳の科学 聞こえる仕組みから、めまい、耳掃除まで 杉浦彩子著 講談社

平成29年度 同好会報告

名古屋市獣医師会テニス同好会 終了のお知らせ

元代表 桑原康人

6年前に先輩諸氏から引き継がせていただいたテニス同好会ですが、参加者が思うように集まらず残念ながら昨年度をもって活動終了とさせていただきます。

これまで参加してくださった皆さんに厚く御礼申し上げます。

名古屋市獣医師会ソフトボール同好会 終了のお知らせ

元代表 鈴木克弥

平成18年春より活動してきましたソフトボール同好会ですが、発足から10年経ってメンバーをとりまく状況も変わり参加者も減少。昨年度をもって活動終了となりました。

これまで参加してくださった同好会メンバーの皆さん、対戦してくださったチームの皆さんに厚く御礼申し上げます。

平成29年度 名古屋市獣医師会行事

4月5日 ～25日	狂犬病予防集合注射事業	11月22日	名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー 演題：『DICと血栓症-臨床に直結する最新の診断法と治療薬-』 講師：辻本 元 先生(東京大学 獣医内科学教室 教授 東京大学動物医療センター 血液腫瘍内科)
5月28日	名古屋市獣医師会 定時総会		
6月29日	名獣JARMcCセミナー 講師：山崎 寛文 先生(日本動物高度医療センター川崎 泌尿器科) 演題：『上部尿路の外科』	12月14日	名獣JARMcCセミナー 演題：『下部尿路の外科』 講師：山崎 寛文 先生(日本動物高度医療センター川崎 泌尿器科)
8月10日	動物優良図書絵本(15冊を10組)名古屋市立幼保育園に寄贈	1月14日	日本小動物獣医師会 学術講習会(名古屋市獣医師会担当) 演題：『ショックを制するものは、救急を制する!』 講師：中村 篤史 先生(TRVA夜間救急動物医療センター)
9月18日	東山動物園のオオアリクイ(24歳)名前:アントに長寿のお祝いとして食虫ベレット27kgを寄贈しました	1月24日	名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー 演題：『DICのお話し@治療編2018～DICとの戦いかた～』 講師：林宝 謙治 先生(埼玉動物医療センター腫瘍科)
9月21日	名獣JARMcCセミナー 演題：『一般診療に役立つ神経疾患の画像診断』 講師：藤井 豊 先生(日本動物高度医療センター名古屋 脳神経科)	2月4日	名古屋市獣医師会学術セミナー 演題：『マダニ媒介SFTSに備えて時間があればFIPとCDVも』 講師：前田 健 先生(山口大学共同獣医学部 病態制御学講座 獣医微生物分野 教授)
10月8日	動物フェスティバル2017なごや(久屋大通公園)	3月23日	名古屋市獣医師会 臨時総会
10月8日	長寿猫飼主表彰式 ・長寿猫飼主(55人) ・長寿猫(58頭 20～23歳 ♂15頭、♀43頭) 長寿猫写真展示	3月23日	名古屋市獣医師会政治連盟 総会
10月8日	交流会：会場『BOUNO LONGE』	3月28日	名古屋市獣医師会救急医療学術セミナー 演題：『血液ガスとCPRにてROSC(心拍再開)後の管理について』 講師：川瀬 広大 先生(札幌夜間動物病院)
10月16日	名古屋市獣医師会学術セミナー 演題：『伴侶動物における薬剤耐性菌の現状と課題』 講師：原田 和記 先生(鳥取大学 農学部共同獣医学科 臨床獣医学講座 獣医内科学教育研究分野 准教授 認定Infection Control Doctor)		

退会者報告

今年度はございませんでした。

物故者追悼

平成30年2月18日 原晋一郎先生がご逝去されました。謹んで心からお悔やみ申し上げます。

犬用慢性心不全用ピモベンダン製剤

ワンちゃんへ、そして、
ペットオーナーへの配慮がうれしい。



【包装】50錠(10錠×5シート)

PimobetHeart[®]

美味しくて与えやすい ブリッジパラダブル[®]錠

簡単投与

ブリッジ錠の採用で簡単に分割でき、投薬時のストレスを軽減します。



小さく、美味しい

従来品に比べ、小さい錠剤になりました。バスター錠、クリア錠と同じく、犬が好むフレーバーです。



高品質な日本製

保存性の良い、高防湿のPTP包装です。投薬期間に応じた処方が可能です。

動物用医薬品 要指示 指定

ピモベハート[®]錠 1.25 ピモベハート[®]錠 5

販売業者
共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南1-6-10

製造販売業者
三宝製薬株式会社
福島県白河市大宿下新城字楽区2-5

開発元
獣医医療開発株式会社
埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1-133-1

強く、広く、優しく。

PK/PD理論による耐性化抑制へのアプローチ!



ビクタス[®]S の特長

I 広い抗菌スペクトラムと広い適応症

グラム陽性菌・陰性菌およびマイコプラズマの広範囲の菌種に強い抗菌力を示します。また、ビクタスSS錠は犬において4つの適応症を有しています。

II 抗生物質耐性菌にも有効

アンピシリン、テトラサイクリン、カナマイシンなどの抗生物質に対する耐性菌にも抗菌力を示します。

III 幼若犬(4ヵ月齢以上)にも使用可能

幼若犬(4ヵ月齢以上)の関節に異常所見を示さないため、幼若犬(4ヵ月齢以上)への使用が可能です。

IV 猫にも犬と同じ用量で使用可能

猫と犬における安全性試験及び臨床試験の結果から、猫にも犬と同じ最高用量(5.0mg/kg)で使用可能です。

V 腸内細菌叢に優しい

犬・猫の腸内細菌叢を構成する(偏性)嫌気性菌に対する抗菌力が比較的弱いため、腸内細菌叢を乱しにくいと考えられます。

VI 投与しやすい製剤

錠剤はサイズが小さく、注射剤は注射量(0.1mL/体重1kg)が少ない。



製造販売元 **DSファーマアニマルヘルス株式会社**

〒541-0053 大阪市中央区本町2-5-7 <https://animal.ds-pharma.co.jp>

選べる“ポチ”



pocH-100iVシリーズが「もっと使いやすく」を実現しました。

診療目的にあわせた2種類の“ポチ”は、タッチパネルによる簡単操作で豊富な臨床データに裏づけされた信頼性の高い検査を実現します。

- 簡単** 測定はサンプルを全血のままセットして、モニタ画面上のスタートボタンにタッチするだけ。また、洗浄も自動的に実施します。
- 高性能** 独自開発の試薬により白血球を分離します。また、血球数が多い動物血測定に効果を発揮するシースフロー方式を採用しています。
- 安心** 試薬にシアンを含まないヘモグロビン測定法の採用で、試薬の管理も安心です。



動物用 多項目自動血球計数装置 pocH-100iV Diff / pocH-100iV

動物用既機承認承認番号: 25動物薬第322号 動物用既機承認承認番号: 15前設第1678号

項目	イタ	WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC, PLT, LYM%, EO%, OTHR%, LYM%, EO%, OTHR%, RDW-SD, RDW-CV, PDW, MPV, PLCR
測定項目	ネコ	WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC, PLT, LYM%, EO%, OTHR%, LYM%, EO%, OTHR%, RDW-SD, RDW-CV
	ウシ・ウマ	WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC, PLT, LYM%, OTHR%, LYM%, OTHR%, RDW-SD, RDW-CV, PDW, MPV, PLCR
研究用項目	other	WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC, PLT, RDW-SD, RDW-CV, PDW, MPV, PLCR, WLCR, W-MCR, W-SCR, W-LCC, W-MCC, W-SCC

*pocH100iV Diffの項目表となります。
*電圧別検査方法による項目表を分類条件として採用しています。特に本項においては白血球と血小板の分離が容易な場合があるため程度分布異常アラート(リアアラート)が表示される場合があります。

●パンフレット、資料は下記にご請求ください。

販売元
シスメックスTMC株式会社
神戸市東区室谷1-3-2 〒651-2241
Tel 078-992-6921 Fax 078-992-6922
www.sysmex-tmc.co.jp

製造販売元
シスメックス株式会社
本社 神戸市中央区臨海通1-5-1 〒651-0073
B社 東京千代田区 1-03-5434-9565
www.sysmex.co.jp



※ 動物用ポチの正確な検査結果を得るには、必ず正しい取り扱いをお願いします。
※ 取扱説明書と必ずお読みください。
※ 取扱説明書と必ずお読みください。
※ 取扱説明書と必ずお読みください。

小動物臨床獣医学サイト **PowerVets** のご案内 www.power-vets.jp

動物病院の設計・開業コンサルティング

動物病院の新築・リフォーム

専門の設計事務所として、多くの動物病院に携わった知識と経験でお客様の希望をかなえます。

- 動物病院の設計・監理**
デザインを重視して「はやる病院」「使いやすい病院」「近隣から苦情の出ない病院」を提案。建物プランニング、設計、予算管理、入札、見積書や施工図のチェック・検査等の工事監理。
- 開業コンサルティング**
開業資金調達を調達します。立地調査・売上予測、開業計画書、事業計画書の作成。将来がイメージできる「堅実な経営」の指導。節税提案、雇用契約から保険までアドバイス。HP作成、広告宣伝、税理士、社会保険労務士の紹介。
- 不動産（賃貸、売買）の仲介**
当社グループ不動産会社が全国の不動産を仲介します。30年間に渡る豊富な経験に基づき、不動産の売買・賃貸の仲介を安全に行います。不動産価格や、家賃の値引き交渉も行います。不動産売買・賃貸仲介は正規料金の3割引きです。譲渡者が決まっている場合は仲介手数料半額。
- 事業承継・動物病院の売買**
譲渡者、譲受者の相談、募集等、事業承継業務を行います。譲渡シミュレーションの作成・事業価値、不動産評価の算定、事業譲渡手続きに伴う不動産売買を行います。譲渡者が決まっている場合の不動産の第三者評価を行います。
- 経営コンサルティング**
成功事例発表や机上の理論ではなく、グループ企業を全て黒字にした経営者が実践に基づいた知識で経営コンサルティングを行います。毎年10億前後の資金調達をお手伝いしている代表取締役 渡辺 毅がお客様に労働問題から節税、資産形成、相続の前後相談、リタイアの蓄地点、退職金、相続税を含めたアドバイスを行います。無駄な費用のかけられない短期契約で指導します。



TAC 一級建築士事務所
株式会社 TAC設計室 TEL 052-932-1156
名古屋市中区東区筒井 3-17-5

動物たちの健康を、 技術と品質で支えていく

動物たちの健康を支える各種製品をラインナップしています。

 日生研ニューカッスル生ワクチンS
 ガルエヌテクトS95-IB
 日生研C-78・IB生ワクチン
 日生研MI・IB生ワクチン
 日生研NB生ワクチン
 日生研ILT生ワクチン
 日生研IBD生ワクチン
 日生研穿刺用鶏痘ワクチン
 日生研乾燥鶏痘ワクチン
 AE乾燥生ワクチン
 ガルエヌテクトCBL
 日生研鶏コクシ弱毒3価生ワクチン(TAM)
 日生研鶏コクシ弱毒生ワクチン(Neca)
 日生研EDS不活化ワクチン
 日生研EDS不活化オイルワクチン
 日生研MG不活化ワクチンN
 日生研コリーザ2価ワクチンN
 日生研ACM不活化ワクチン
 日生研NBBAC不活化ワクチン
 日生研NBBEG不活化オイルワクチン

 日生研日本脳炎生ワクチン
 日生研日本脳炎TC不活化ワクチン
 日生研PED生ワクチン
 日生研TGE・PED混合生ワクチン
 日生研豚丹毒生ワクチンC
 日生研豚丹毒不活化ワクチン
 日生研AR混合ワクチンBP
 日生研ARBP混合不活化ワクチンME
 日生研ARBP・豚丹毒混合不活化ワクチン
 日生研グレーサー病2価ワクチン
 日生研豚APワクチン125RX
 スワインテクトAPX-ME
 日生研MPS不活化ワクチン
 日生研豚APM不活化ワクチン

 アカバネ病生ワクチン「日生研」
 日生研牛異常産3種混合不活化ワクチン

 日生研日本脳炎TC不活化ワクチン
 エクエヌテクトFLU
 馬鼻肺炎不活化ワクチン「日生研」
 エクエヌテクトERP
 日生研日脳・馬ゲタ混合不活化ワクチン
 エクエヌテクトJIT
 日生研馬口タウウイルス病不活化ワクチン
 破傷風トキソイド「日生研」

 日生研狂犬病TCワクチン
 (共立製薬株式会社販売です。)

 オーシャンテクトVNN



日生研株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町 9-2221-1
<http://www.jp-nisseiken.co.jp>
Tel: 0428-33-1009



動物を守り、人を支える
ワクチンの京都微研



株式会社 微生物化学研究所

明日の医療と健康を
支えるチカラ



医療用医薬品、臨床検査用試薬、動物用医薬品、医療機器、
ワクチン、衛生材料、血清、等の総合卸販売



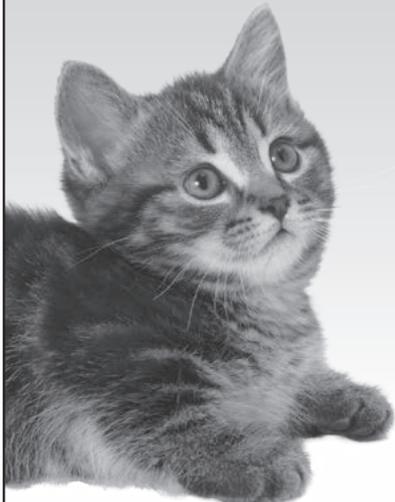
医薬品卸売業

株式会社 ファイネス

[本社/金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[名古屋支店] 〒465-0092 愛知県名古屋市中東区社台3丁目179番地 TEL 052(774)2638 FAX 052(774)2940
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店
[営業所] 高山営業所・富山営業所・金沢営業所・新潟営業所・三重営業所・豊橋営業所

FUJIFILM
Value from Innovation

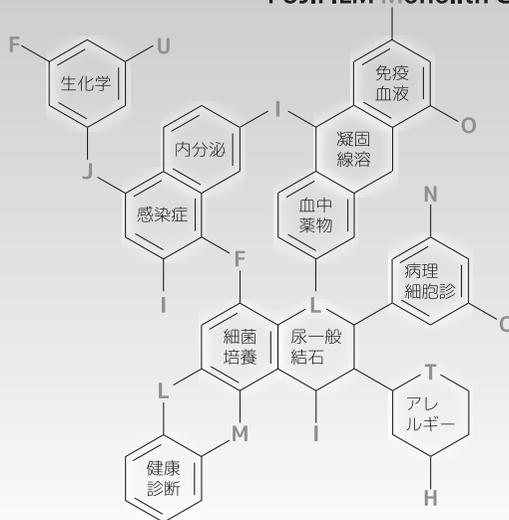
動物専門の臨床検査センターとして
先生方の特殊検査ニーズに
的確にお応えします



地域に根ざしたサービスを目指して—
営業・集荷・検査ラボネットワークを展開しています



FUJIFILM Monolith Co., Ltd.



富士フイルム モノリス株式会社

東海営業所 愛知県名古屋市中東区上社4-57-5 第2フェアメント103
TEL : 052-709-6170 <http://www.monolis.com/>

名古屋ペット霊園

主宰: 宝泉寺

- ◆ 葬儀・火葬・供養を承ります。
- ◆ 病院までお引取に伺います。



〒468-0058 愛知県名古屋市天白区植田西 3-811
TEL : 052-806-0194 HP : <http://hoson-ji.jp>

- ◆ 電話対応時間 7:00~22:00 ◆
- ◆ 葬儀受入時間 10:00~17:30 ◆



慈妙院 動物霊園

33年の伝統と信頼

〒487-0021 愛知県春日井市東神明町 479
TEL : 0568-51-1059 HP : <http://www.jimyouin.or.jp>

一つの尊い命

ひと昔前、ペットの命はとても軽く見られ、お経をあげてもらうこともなく土に埋められたり、ゴミとして処理されることが一般的でした。しかし最近では、ペットを一つの尊い命家族の一員としてとらえ、葬儀も人間と何ら変わらないものを望まれる方が増えてきています。

同じように、生ある間、愛しい子に少しでも永く幸せな生涯を送って欲しいと望んでいます。当山ではペットを亡くされた際には、「死亡診断書」をかかりつけの先生にお願いし、一つの尊い命として、人間同様の扱いをしてもらえるように努めております。

また、ペットの地位向上の為、賛同して下さる先生方の病院を 当山にてご紹介もしています。

一つの大切な命として親身に対応して下さる良い先生方と出会い、その子の生涯を、一緒にサポートしていきたいと、当山は考えております。

あなたの手で愛する子を幸せへと導いてあげませんか。



総本山

長楽寺動物霊園

☎052-811-6036

〒457-0014 名古屋市南区呼続 4-13-18 <http://www.chourakuji.org>

瞳は未来を見つめてる。



動物用医薬品 製造販売



日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

株式会社 **アスコ**
 http://www.asco.co.jp
 国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
 人と動物の穏やかな共生環境づくりに貢献します

本社
 〒441-8021
 愛知県豊橋市白塚町100番地
 TEL 0532-34-3821
 FAX 0532-33-3611

支店

・東日本支店
 埼玉、群馬、栃木、茨城、群馬、
 茨城、大宮、宇都宮、福島

・中日本支店
 静岡、愛媛、浜松、沼津、岐阜、名古屋

・西日本支店
 広島、岡山、山口、米子、岡山
 大塚、京都



ASCO

●動物用医薬品 ●動物用フード
 ●各種医療機器 ●院内消耗品
 ●オリジナル輸入製品
 プレミアム・フード「フリント・リバー・ランチ」
 ●国内外メーカーのクリニック推奨品 各種

ペットと人との健康で豊かな未来に貢献いたします

同和化学株式会社

本社 〒462-0005 名古屋市長区池花町300番地
 TEL 052-901-3101 FAX 052-901-3104

岐阜支店 〒500-8302 岐阜市本郷町5-9
 TEL 058-253-6106 FAX 058-253-6219



医薬品・動物薬品・検査機器
 医療のトリプルメリットを追求する

中北薬品株式会社

松軒支店 (052) 935-4636
 豊橋支店 (0532) 54-9151
 岡崎支店 (0564) 21-7211



動物病院 設計設備

MSG 有限会社 メディカル技研

〒487-0034
 愛知県春日井市白山町3-19-15
 TEL (0568) 52-0138
<http://www.medical-giken.com>



編集後記

今年から、あゆみの担当をさせていただく事になりました。不慣れな為に皆様にご迷惑をおかけした事も多々あったのではないのでしょうか。それでも、今回発行までに至ったのは皆様のご協力があったからこそだと思っております。

獣医業界全般としては、SFTSや人獣共通感染症問題など少しざわざわした話題が多かったですね。皆様の医院でも飼い主様からの質問や心配の声が聞かれたのではないのでしょうか。

名古屋市獣医師会としては、前年度の10月から始まった狂犬病鑑札、注射済票交付委託事業が本格的な予防シーズンを終えました。院内の様子はどうでしたか。忙しい時期の実施でしたので大変だったと思いますがご協力ありがとうございました。

秋には獣医師会のイベントとして動物フェスティバルが行われました。今年から長寿功労猫の表彰を動物フェスティバル会場にて行いましたが、盛況の末終える事が出来ました。

また、夜間動物緊急診療所では多くの獣医師会員の皆様にご協力いただいたことにとっても感謝いたします。これからも、夜間動物緊急診療所のスタッフと会員の皆様と力を合わせてより良い夜間病院にしていきましょう。

最後になりましたが、本会誌を作成するに当たり多くの先生方に原稿をお書きいただき事務局の方々には様々な資料をご用意いただきました。会誌委員の方には原稿集めや校正にご尽力いただきました。そして多くの企業様に協賛広告を賜りました。

皆様に会誌の趣旨をご理解いただき、お忙しい中でも快くお引き受けいただきました事を心より感謝いたします。ありがとうございました。

会誌委員会 担当理事 菅沼 英人

あゆみ Vol.53

発行日 2018年3月23日

発行 公益社団法人 名古屋市獣医師会
名古屋市中区大須4丁目12番21号
TEL：052-263-0700
FAX：052-264-9381
<http://www.nagoyavet.jp/>

会誌委員会 委員長 菅沼英人
浅井悠平 伊藤広孝
小島健治 小島健太郎
児玉順子 夏目里枝子
鈴木克弥 保田恭志

印刷 株式会社ワコーヴィスコム
名古屋市中区木津根町61番地
TEL：052-915-0681
FAX：052-915-0671

獣医師の皆さまとご家族に 大きな安心を!!

公益社団法人日本獣医師会
獣医師福祉共済事業



獣医師の皆さまを取り巻く様々なリスクの備えに

「獣医師会のほけん」

一家の大黒柱の獣医師ご本人が病気やケガで働けなくなったら・・・

ご本人やご家族が病気やケガで入院や通院をされたら・・・

動物病院の従業員の皆さまがお仕事中にケガをされたら・・・

動物病院の什器・備品・医療機器が偶然な事故で損害を被ったら・・・

団体割引20% 病気やケガに備える

所得補償保険	団体長期障害所得補償保険	新・団体医療保険*	傷害総合保険	動物病院従業員補償傷害総合保険
ご本人やご家族(就業者)が病気やケガで働けなくなったときの補償 (入院は初日から最長372日 自宅療養は支払対象外期間7日 の後最長1年間補償)	ご本人やご家族(就業者)が長期に渡り、病気やケガで働けなくなったときの補償 (支払対象外期間372日の後 最長70歳まで補償)	ご本人やご家族が病気やケガにより入院・通院・手術したときの補償	ご本人やご家族がケガにより入院・通院・手術したときの補償	動物病院の従業員が仕事中にケガをして入院・通院・手術したときの補償
*医療保険基本特約、疾病保険特約、傷害保険特約、がん保険特約セット団体総合保険				

動物病院の「什器・備品・医療機器」の損害に備える

動物病院 「什器・備品・医療機器」総合補償 (テナント総合保険)	<p>下記損害に関する補償がセットされています。</p> <p>①火災・爆発・風災・盗難・破損等の「偶然な事故」による動物病院の動産(設備・什器・備品等)の損害</p> <p>②火災・爆発・破裂などの事故による動物病院やユーティリティ設備の損害による動物病院の休業損害</p> <p>③火災・爆発・風災・盗難・破損などが原因で建物オーナーに対して負担する賠償責任</p> <p>(③は借用店舗の場合に補償対象となります)</p>
---	--

日本獣医師会福祉共済事業各保険の資料は下記幹事代理店までご請求ください。
なお、携帯電話からもご請求いただけます。右のQRコードからアクセスしてください。



保険契約者 公益社団法人 日本獣医師会

このご案内は概要です。詳しい内容につきましてはパンフレットをご請求いただき、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店までお問い合わせください。

問い合わせ先

幹事代理店 **株式会社安田システムサービス**
 〒163-1529 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー29F
 TEL:03(3340)6497 FAX:03(3340)5700
 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝休)

引受保険会社 **損害保険ジャパン日本興亜株式会社**
 団体・公務開発部第二課
 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 TEL:03-3349-5402 FAX:03-6388-0161
 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝休)